



01 背景

少子高齢化・人口減社会では、地域活力の低下及び社会保障コストの増加は避けられず、世代間扶養モデルである年金、医療、介護はいずれも持続性が低下することから、これらを回避するための施策が必要です。

また、高齢者人口の増加に伴い、医療を必要とする人や要介護者等の人数及びその割合も増加傾向にあり、今後も医療費や介護給付費の増加が予測されます。

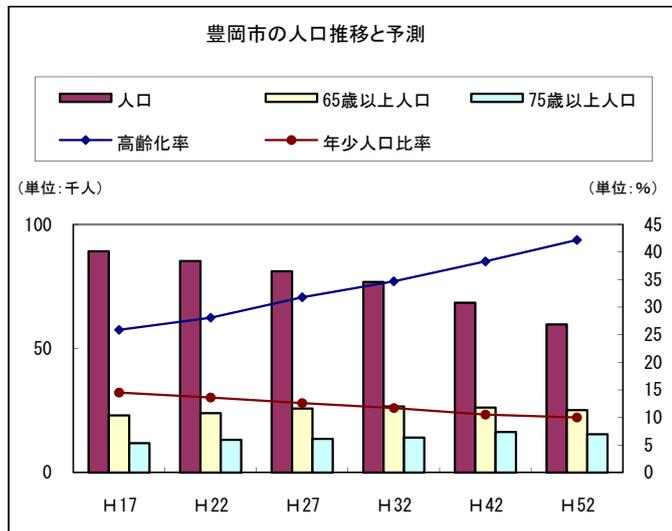
さらに、人口減社会の中では、経済規模の縮小・沈滞から税収の減による公共サービスのレベル低下、集落機能や地域の活力低下などが生じることも予測されています。

○豊岡市における現状

本市における高齢化率は28.3%（平成22年2月1日現在）と県内でも高齢化が進んだ地域であり、平成27年には31.8%と市民の約3人に1人が高齢者になると見込まれています。

合計特殊出生率¹は、平成22年で1.94と長期に人口を維持するために必要とされている2.07~2.08を下回り、人口も、平成17年89,208人が平成27年には81,107人、平成42年には68,486人に減少すると推計されており、今後、急激に少子高齢化が進む見込みです。

また、本市の平成20年の主要死因別死亡原因を見ると、悪性新生物29.1%、心疾患15.3%、脳血管疾患10.2%、糖尿病1.4%、高血圧性疾患1.0%と、食生活や運動不足に起因する生活習慣病が約6割を占めています。生活習慣病健診の結果を見ても、全ての項目で正常範囲内の者が減少し、生活習慣病継続加療者は、増加傾向にあります。



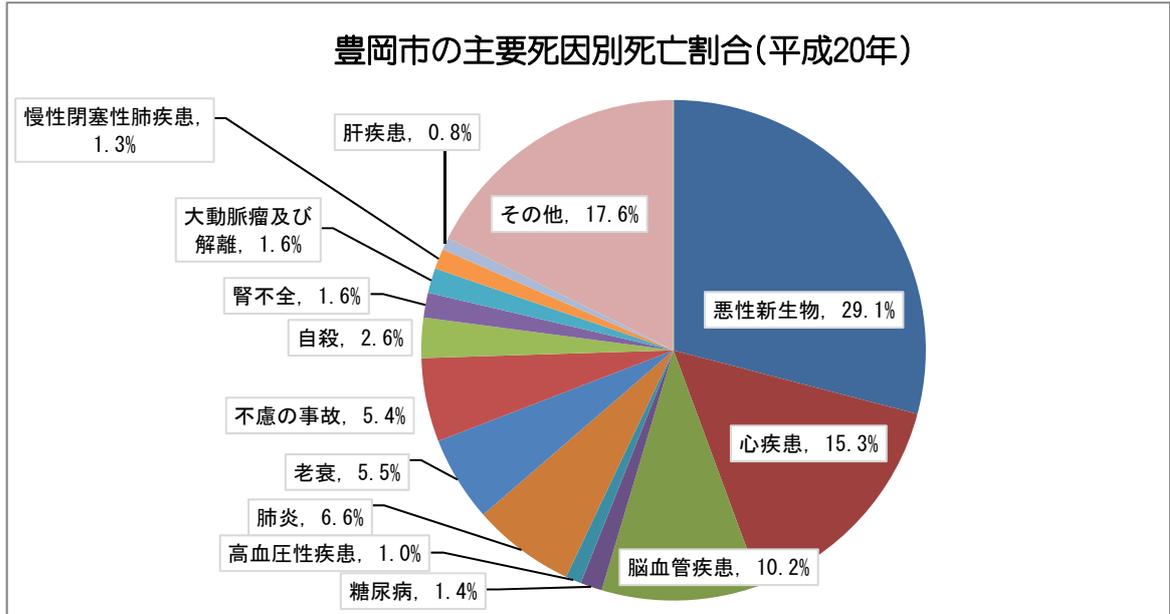
(兵庫県将来推計人口【平成20年5月】)

すこやか市民ドッグ基本健診の総合判定結果

	区分	受診者数	正常範囲	軽度異常	要指導	要医療	継続加療
平成20年度	対象者	7,823人	547人	974人	2,293人	1,109人	2,900人
	割合	100%	7.0%	12.5%	29.3%	14.2%	37.1%
平成21年度	対象者	7,705人	461人	862人	2,207人	1,041人	3,134人
	割合	100%	6.0%	11.2%	28.6%	13.5%	40.7%

¹ 合計特殊出生率（ごうけいとくしゅしゅっしょうりつ）…人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。粗再生産率とも呼ばれる。（フリー百科事典より）





(平成20年保健統計年報【兵庫県】)

さらに、平成18年度に実施した市民アンケートの結果、運動習慣者（1日30分以上週3回以上）の割合は、成人男性23.3%、成人女性20.8%と県に比べ少ないことが判明しました。

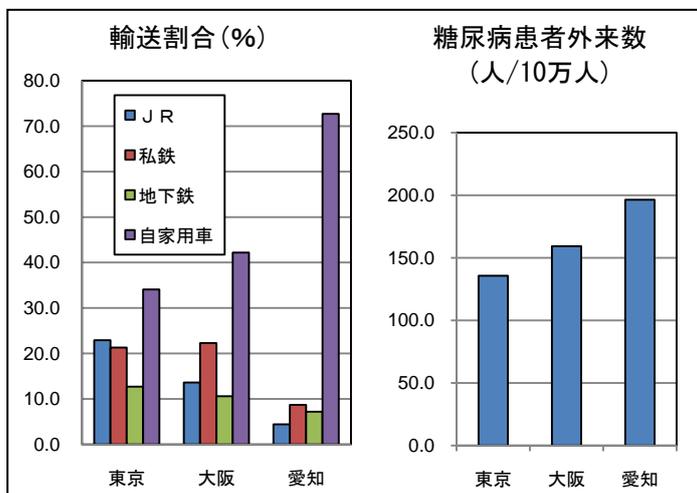
平成18年度豊岡市健康行動計画策定のためのアンケート調査

	区分	市	兵庫県(H16)	国(参考:H16)
運動習慣者(1日30分以上週3回以上)の割合	成人男性	23.3%	33.1%	30.9%
	成人女性	20.8%	34.3%	25.8%

参考：国は、1回30分以上の運動を週2回以上実施している者の割合を示している。

こうした現状の中、本市は、合併による広大なエリア、少子高齢化の進展などの市の特性や健康課題を明確にしながら、市民が健康で生きがいを持って暮らすことのできるまちをつくる必要があります。

○東京・大阪・愛知における自家用車輸送割合と糖尿病患者数²



生活習慣病の発症には、個人的因子だけではなく、環境因子も一定の影響があります(左記の表から、自家用車を利用する人が多いほど糖尿病患者も多くなる結果が得られています)。

²為本浩至：肥満と糖尿病，8:923，2009